

令和2年度 事業報告書

社会福祉法人 さわらび会

介護老人福祉施設 ブエナビスタ

介護老人福祉施設 ブエナビスタ（空床型短期入所）

【令和2年度 介護老人福祉施設 ブエナビスタ 事業報告】

1. 基本方針

(1) 「生活の場」としての施設援助

コロナ禍の1年であったが、施設の基本理念「誠実な心、優しい心、進取の心で利用者の生活に「安心」をもたらします」をケアの基本とし、職員間で共有、再確認しながら入居者・ご家族に対しサービスの提供を実施した。

(2) 個別ケアへの取り組み

新規入居された方に対して、これまで歩んでこられた生活歴やご本人・ご家族の意向に沿ったサービス計画書を作成、実施できるよう多職種協働にて取り組みを行った。施設プランの位置づけとしては以下の解決すべき課題に優先順位を設けた。

- (1) 生命に関すること
- (2) ご利用者・ご家族の要望
- (3) その他優先すべき解決課題

又、状態に変化（疾病、事故、褥瘡形成等）が見られた際、要介護度に変更があった際、入居者やご家族から希望があった際、期限が満了した際には担当者会を開催し検討した。

(3) 職員研修の実施

個別ケアの特色を活かし、例年は施設理念である3つの心に沿ったケアサービスが発揮できるよう施設内研修を中心に取り組んできたが、コロナ禍に見舞われた今年度は6・7月度を除き施設内研修・施設外研修共に3密を避ける意味から開催できず年度末を迎えた。ユニットケアの理解を始めとして、事故防止、高齢者虐待・身体拘束廃止、個人情報保護法等、項目別に担当者を設けて研修を計画していたが全て流れた。施設外研修では、例年多数の職員が研修に参加し、各部署ごとにユニットケアに対する理解を深め、研修参加後は研修課題を通じて職員の意見聴取や取り組みの実施に繋げ、ユニット内の入居者に対してケアの展開を図ってきたが今年度は実現できなかつたため次年度へ持ち越すこととする。

(4) チューター制度の確立

今年度4年制大学卒業生他入職に伴い、本制度を導入したことで、介護技術の教育・指導及び他の職種との連携をスムーズに理解させることができた。また、チューターの熱意により新人だけでなく経験年数の長い職員にも介護の意味を理解させることが出来た。また、チューターが随時行う面談により、新人職員等が疑問に感じたこと・躓いたこと・聞きたくても遠慮して聞けなかった事等を確認することが出来、その報告が随時上長迄上がってきたことで、従前にもまして職

員の動向を把握しやすくなり、本制度を導入したことは正解であったと言える。

(5) 地域貢献

令和2年度は前年度に比して地域の集会や行事に参加することを目指したが、コロナ禍で実現できず、毎年恒例のハロウィーン行事以外に参加する余力に欠けたため、次年度はこの流れも落ち着くと思われ、幼老共生施設の実現を目指す。

2. 介護方針

(1) 離床対策

ご本人のニーズやご家族の希望も踏まえた生活状況の把握に努め、その方に応じた生活リズムを尊重しつつ、基本的には朝・昼・夕の食事・おやつは共同生活室にて摂取して頂いた。身体上、ADL等の状況により座位がとりにくい方に対してもリクライニング式車椅子を活用する等工夫し、離床時間を確保するように努めた。又、認知症によりご本人の判断が難しい方に対しても、日頃よりアセスメントを実施し適切な離床時間確保に努めるようユニット単位で協議を行った。困難事例に関してはユニット会議を通じて現場職員の意見聴取し専門職の意見も踏まえ対応を行った。結果、食事以外の時間にユニット単位で余暇活動等を実施し、参加して頂いた。余暇活動内容（塗り絵、カラオケ、折り紙、書道、読書等）。

(2) 認知症入居者への対応

事業計画では、施設内研修にてユニットリーダーが中心となり、テーマを「ユニットケアの理解」とし勉強会を開催する予定であったが、開催できずに終わった。内容としては、ユニットケアを理解し、認知症入居者の個性や生活リズムに沿ったケアができるように学習を進める予定であった為次年度に持ち越すこととなった。

(3) 身体拘束ゼロ・虐待ゼロの推進

身体拘束防止委員会、虐待防止委員会を中心に、施設内にて委員が資料作成し勉強会開催の代わりに各部署へ資料配布を行った。身体拘束廃止・虐待防止に向けての検討会を短時間に随時行った。又、現場で感じた拘束(スピーチロック等)を、ユニット会議で話し合い介護職員の資質向上に努めた。

この一年間では、胃瘻設置者でしばしばペグを抜去する方がおり、抜去防止の為ミトン装着等の希望がご家族からも出されたが、ブエナでは介護と看護の工夫で、ミーティングや会議を重ねて身体拘束の必要性を認識し、ご家族の同意を得たうえで拘束を選択し、入居者の安寧を維持することが出来た。但し、その記録を正式に残すことをしなかったことを監査で指摘された為、緊急に作成提出し今後忘れずに記録作成を行うこととなった。

(4) 在宅復帰

令和 2 年度は在宅復帰された方はおりませんでした。今後はカンファレンス時などご家族やご本人の意見を聞きながら、6 ヶ月毎の担当者会を通じて在宅復帰が可能かを都度検討し、帰ることが出来る方は積極的に支援する。

3. 生活援助方針

(1) 食事と栄養

毎日の食事内容について、職員・入居者からの意見の聞き取りと、食材では委託業者と協議し、出来る範囲で品質が良く、美味しいものに切り替えていった。常食・刻み・極刻み・ミキサー食(一部ソフト食導入)水分のトロミ等の基準をつくり、入居者の咀嚼・嚥下力に合わせた安全な食事が提供できるよう、率先的にとり進めた。又、行事食は季節感を感じてもらえるよう季節の食材を使用提供したことで、好評を得ることが出来た。

介護面では入居者の残存機能を考慮し、ご自身で出来ることはやっただけのように言葉を掛け促していった。ご自身では無理な方に対しては、摂取時の姿勢などに留意しながら、安全に食べていただいた。またコロナ禍により年末恒例の「餅つき大会」は中止となったが、次年度は入居者やご家族の皆様にお餅を提供し季節・時節の味を堪能して頂く予定である。

(2) 口腔ケア

フリージア歯科の医師の指示のもと、歯科衛生士から指導を受けることで専門的なブラッシングを行うことが出来た。入居時にはフリージア歯科から検診をして頂き、入居後はご家族の協力のもと定期的に口腔状態のチェックを行った。また、原則として毎食後、口腔ケアを行い口腔内の清潔に務めることで、誤嚥性肺炎の予防にもつながった。

(3) レクリエーション・クラブ活動

コロナ禍の為、全体行事として敬老会の開催を中止せざるを得なかった。例年であれば、3 階大会議室と共有スペースを全面開放し、ご家族も招き外部ボランティアのイベントで午前・午後と慰問して頂くのであるが、今年度はそれが叶わず次年度に持ち越しとなった。食事に関しては、行事食を提供させて頂き皆様美味しいと喜んで頂きました。食後には紅白のお饅頭を提供させて頂きました。

またユニットの取り組みとして、個人のニーズに合わせ認知症予防、機能訓練のためカラオケ、塗り絵等も実施した。前年度中国から始まった新型コロナ禍により年明けから殆どの行事を中止せざるをえずお花見も外食レクもない環境の中で、入居者の皆様方には大変お気の毒な思いをさせていることに、本当に申し訳なく残念でなりません。医療従事者を優先にやっどワクチン接種が日本でも始まることになりましたが、他の先進 7 か国に比して日本は遅れていますので、いつ収束するか分からない状態ですが、一日も早い元の生活の復活を願っています。

(4) 排泄ケア

ユニットリーダーが中心となり排泄表の作成により入居者個人の排泄パターンの把握に努め、適切な時間のオムツ交換に努めた。可能な範囲で紙パンツより布パンツにシフト出来るようご家族の協力を得ながらオムツ除去に努めた。

(5) 入浴ケア

週 2 回以上の入浴を基本に行った。個人のADLを把握し個浴、特浴のどちらが適切かを見極めケアに努めた。個浴に関してはマンツーマンでの介助とし、ゆっくり浴槽に浸かれる体制をとり入浴して頂いた。特浴に関しては基本 2 名の介助者により負担軽減を図りつつ「ゆっくり」と浴槽に浸かれる時間の確保に努めた。

(6) 個別機能訓練

機能訓練指導員が、入居者の身体状態に合わせた機能訓練計画書を一人一人個別に作成し、目標・目的に沿って実施した。個別機能訓練実施曜日としては、4 階＝月曜日（午前・午後）、3 階＝火曜日（午前・午後）、2 階＝水曜日（午前・午後）、1 階＝木曜日（午前・午後）、金曜日（全フロア）に実施。個別機能訓練及び集団体操。集団体操は月曜日から金曜日までうめぼし体操等のレク体操を実施し、日常生活での基本動作能力が現状よりも低下する事がないよう他職種との連携を持ちながら業務を遂行した。

(7) 褥瘡予防ケア

入居時、退院時、入居後 3 ヶ月毎に OH スケールにて褥瘡の危険度判定を行い、高リスクの入居者については褥瘡委員会メンバーを中心として除圧や栄養面等から予防策について検討を行い褥瘡発生防止に努め、ユニットにおける日々のケアの実施に繋げた。その結果、令和 2 年度は該当する入居者が 1 名（令和 2 年 12 月の入居時より褥瘡あり）、令和 3 年 3 月末現在治療中である。令和 3 年度も褥瘡発生時には、早期に褥瘡ケア計画を作成してケアを実施し、早期治癒を目指す。

(8) 事故発生防止

介護事故報告書提出件数は 3 件であった。3 密防止のため定例事故防止検討会は出来なかったが、専門職を交え検討会を実施した。ヒヤリハットリスク 1、ヒヤリハットリスク 2 の件数を出し内容の分析を行った。再発防止策が不十分の場合は、入居者の現状を会議の中で再分析し再発防止策の変更を行った。事故発生時にはご家族への説明を迅速に行い、協力病院と連携を図り、早期受診を行う事で重篤化防止に努めた。

(9) ケアプラン

包括的自立支援プログラムを活用しケアプランを作成した。事前にご本人・ご家族の意向を聞き取り、担当者会参加を促しながらケアプラン作成に努めた。不参加の場合は仮プランを事前に説明し対応した。プランニーズでは施設として①生命に関すること②ご入居者・ご家族の意向③その他優先すべき解決課題と優先順位を設け作成にあたった。解決すべき課題の取り組みやその他状態に変化が見られた際には随時担当者会を開き、多職種協働のもとケアプランを作成した。

(10) 看取り介護ケア

入居者に対し、医師が一般に認められている医学的見地に基づき回復の見込みがないと診断した場合に、その後のケア内容につき医師をはじめ看護職員・介護職員等多職種が協働で計画したものを、ご本人及びご家族に対し十分な説明を行い合意したうえで、「その人らしさ」をより尊重した介護として提供した。令和2年度は、14名の対象者を看取ることが出来た。ご家族からも「大変お世話になりました。有難うございました」と労いのお言葉を頂きました。

4. 医療と看護

入居時に何らかの既往症や疾患を有している入居者が少しでも苦痛なく、安心して生活ができる様に、協力病院である西部総合病院との連携を密に健康管理に努めた。日々一番身近でケアを行っている介護職員の気づきを大切に、看護師は異常の早期発見、早期受診を心掛けている。また日頃から多職種間での情報交換を行い、ご家族の思いにも寄り添える医療的な援助が出来る様努めている。また感染症は新型コロナウイルスの罹患者が入居者で1名（入居前日に利用したデイサービスで罹患）・職員0名、インフルエンザの罹患者が入居者0名・職員0名であった。また、ノロウイルスに関しても0名であった。

5. 利用者の状況

令和3年3月31日現在

(1) 現状

異動状況		男	女	計
R2.4.1	入居	10	12	22
～ R3.3.31	退居	7	16	23
年齢構成	～64	1	0	1
	65～69	0	0	0
	70～74	2	3	5
	75～79	4	3	7
	80～84	6	14	20
	85～89	5	20	25
	90～94	4	23	27
95～99	1	2	3	
R3.3.31	100～	0	4	4
現在	計	23	69	92

(2) 入退居の状況

期間：令和2年4月1日～令和3年3月31日

	入所前の状況			入所者数 計	退所者の状況					退所者数 計	月末 在籍 者数
	在宅	医療 機関	老健その 他施設か らの転入 等		社会 復帰	家庭 復帰	医療 機関 入院	その他 施設等 への転 出	死亡		
		計		計							
4	1	1	0	2	0	0	1	0	2	3	92
5	0	2	1	3	0	0	0	0	2	2	93
6	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	94
7	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	95
8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	95
9	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	93
10	0	2	1	3	0	0	0	0	4	4	92
11	0	1	0	1	0	0	0	0	3	3	90
12	3	0	1	4	0	0	0	0	4	4	90
1	0	1	2	3	0	0	0	0	1	1	92
2	1	1	0	2	0	0	0	0	1	1	93
3	1	1	0	2	0	0	0	0	3	3	92
計				22	計					23	

(3) 利用者の生活状況 (令和3年3月31日現在)

A 日常生活動作状況 (在籍者: 92名)

		人数	%
移動	自立	10	10.9
	一部介助	14	15.2
	車椅子	68	73.9
	計	92	100.0
排泄	自立	5	5.4
	一部介助	38	41.3
	全介助	49	53.3
	計	92	100.0
食事	自立	34	37.0
	一部介助	16	17.4
	全介助	42	45.7
	計	92	100.0
入浴	自立	3	3.3
	一部介助	35	38.0
	全介助	54	58.7
	計	92	100.0
整容	自立	21	22.8
	一部介助	23	25.0
	全介助	48	52.2
	計	92	100.0
寝返り	自立	31	33.7
	一部介助	22	23.9
	全介助	39	42.4
	計	92	100.0
着脱衣	自立	9	9.8
	一部介助	31	33.7
	全介助	52	56.5
	計	92	100.0

B 面会者状況

回数	男	女	計
0	0	0	0
1~2	0	0	0
3~4	0	0	0
5~6	0	0	0
7~8	0	0	0
9~10	0	0	0
11~12	0	0	0
13~	0	0	0
	0	0	0

※ 対象者：令和3年3月31日在籍者

※ 期 間：令和2年4月1日～令和3年3月31日

(4) 外泊状況

回数	男	女	計
0	0	0	0
1~2	0	0	0
3~4	0	0	0
5~6	0	0	0
7~8	0	0	0
9~10	0	0	0
11~12	0	0	0
13~	0	0	0
	0	0	0

※対象者：令和3年3月31日在籍者

※期 間：令和2年4月1日～令和3年3月31日

(5) 特養入所者状況、ショートの利用者状況

①【令和2年度のべ利用者数の月別推移】全96床

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
入居	2,755	2,878	2,782	2,857	2,823	2,787	
稼働率	95.66	96.71	96.60	96.00	94.86	96.77	
ショート	0	0	0	0	0	0	
小計	2,755	2,878	2,782	2,857	2,823	2,787	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
入居	2,814	2,728	2,777	2,777	2,591	2,886	33,455
稼働率	94.56	94.72	93.31	93.31	96.39	96.98	95.48
ショート	0	0	0	0	0	0	0
小計	2,814	2,728	2,777	2,777	2,591	2,886	33,455

②【年度別稼働率推移表】

(%)

年度	H28	H29	H30	R1	R2	平均稼働率
入居	50.61	80.86	94.26	95.50	95.48	83.34
ショート	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

令和 2 年度行事実施報告

(備考)

月 1 回 *誕生日会

毎 週 *ユニット内にてカラオケ、塗り絵、書道 その他 レク

※印：中止案件

令和 2 年度は、ユニット内レクは実施できましたが、外出レクはコロナ禍により悉く中止となりました。またボランティアの方の受け入れも出来ず、ご家族様も辛い一年となりました。

月	行 事
4	※お花見レク
	防災訓練 (河川氾濫を想定)
5	※端午の節句
	※親睦会
	母の日イベント
	※合同ドライブ (薔薇園散策)
6	父の日喫茶店
	※料理クラブ
7	※七夕 (フラダンス)
8	ユニット合同納涼祭
	夏祭り (ビアガーデン)
	※防犯訓練
9	※暑気払い
	ユニット単位敬老会
10	※芋煮会
	※ハロウィーンレク
11	※別所沼公園・紅葉ツアー
12	ユニット単位クリスマス会
	※忘年会
	※餅つき大会
1	※映画観賞会
2	節分豆まき・バレンタインレク
	チョコレートフォンデュを楽しもう
3	※全体レク (粘土細工・お花づくり)・桃の節句
	フルーツあんみつ作り

令和2年度 OJT（施設内研修）計画

— 介護老人福祉施設 ブエナビスタ —

※令和2年度は新型コロナ禍により、緊急事態宣言が解除された6月、7月のみ開催となりました。

月日	研修内容	担当者	出席人数
4月 13.17 日	・令和2年度事業計画について ・介助と骨折について	山田施設長 池田チーフ	未開催
5月 11.15 日	・ユニットケアについて ・感染予防について	ユニットリーダー 感染症委員会	未開催
6月 8.12 日	・身体拘束廃止について ・虐待防止について	山田施設長	12名
7月 13.17 日	・高齢者施設に必要な 医療の知識	安田主任	33名
8月 11.14 日	・排泄ケアについて	ユニチャーム	未開催
9月 14.18 日	・事故防止について ・身体拘束廃止について	事故防止委員会	未開催
10月 12.16日	・感染予防について	感染症委員会	未開催 吐物処理の 実践研修
11月 9.13 日	・個人情報保護法について	山田施設長	未開催
12月 14.18日	・身体拘束廃止について	事故防止委員会	未開催
1月 11.15 日	・認知症ケアについて ・判例に見るリスクマネジメント	ユニットリーダー 山田施設長	未開催
2月 8.12 日	・看取りケアについて ・救急対応について	水上ドクター	未開催
3月 8.12 日	・虐待・身体拘束防止について ・法令遵守について	事故防止委員会 山田施設長	未開催

以上